

講義名	特別講義（プロデュース論）			授業形態	
担当教員	持田 信治	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

テレビや雑誌の企画・制作は厳しいプロの現場である。社会動向や流行、視聴者の嗜好を見極めて企画を起し、制作費をスポンサー企業から外部調達する。このようにしてスタートした後は、さらにタレントなどの人材の能力や特性を見極めて魅力を引き出し、企画内容に合わせて取材をし、素材を編集してクリエイティブとビジネスのバランスを取りながら毎週の番組を連続なく作り上げていく。このすべてのプロセスを担うのがプロデューサーや編集長（編集者）である。この講義は「明日のテレビを考える会」の協力の下、テレビ局や雑誌社などの第一線で活躍するゲスト講師が毎回講義を担当してメディアの最新動向を話し、これを社会に第一歩を踏み出す学生向けに話してもらい、他の講義ではなかなか経験できないユニークな内容となっており、毎年、多くの受講生が履修している。なお、ゲスト講師からの依頼も踏まえて、毎回、感想、学修成果を小レポートとして提出してもらい、これは出席確認も兼ねる。本講義は本学のデイロママリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができる能力の醸成に寄与する。

到達目標

目的達成のための企画をマネジメントするとは何かを理解できる。
目的達成のための企画を成功させる要因について理解できる。

提出課題

「主題と概要」に書いたとおり、その他については、適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「主題と概要」に書いたとおり、その他については、適宜指示する。
講義内で積極的に質問してもらうことを前提にしている。
レポートなど課題については、適宜対応する。

評価の基準

授業参加度が50点、そして講義関連レポート50点で評価する。ただし、授業参加度が高い学生、授業参加度が善良な学生は加点する。無断欠席する学生、授業態度の悪い学生は大幅減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠届、医師の診断書が病院の領収書写し、など）の提出を求める。

履修にあたっての注意・助言他

この講義の目的は、マスコミの仕事やテレビの制作プロセスを理解することだけではない。演説や物作りには拘泥せず仕事を進める思考法を学ぶことになる。これは卒業後に仕事をしていくために必要な能力であることとまず、学内でのアクティブ・ラーニングを進める上で大きな力となると期待される。本講義は外部から招聘したゲスト講師が担当することから、失礼のない前向きな態度で臨んで欲しい。受講生の態度の良し悪し、積極性の有無が、流通科学大学の学生の評判、ひいては本学のブランドに影響する。ブランド力が下がれば、自身だけでなく他の学生の将来にも悪影響を及ぼすことを自覚しておいて欲しい。受講生一人一人が、「本学の顔」である。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

ゲスト講師の著作権に関わるので、以下の点を理解、厳守して欲しい。
1. ゲスト講師が使ったスライドは、印刷して配布しない。
2. スマホ他によるスクリーンショットも禁じる。
1. 2. の環境に対応するため、自ら書きとる力、聞き取る力を高めてもらいたい。メモしないのでと聞いては、筆記道具、ノートも持参しないという、本学で散見される大学生としては信じられない姿勢を当たり前の姿と思わないでいただきたい。

授業計画

担当教員によって授業の内容や方針が異なる。担当教員の説明に従うこと。
講師及びスケジュールは決まり次第発表する。ただし、外部講師の都合により、講師及びスケジュールは変更される可能性がある。
予習：シラバスや講義予定を把握して、疑問があればまとめておく（120分）。
復習：講義中は講義ノートを取り、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。
第1回外部講師
第2回外部講師
第3回外部講師
第4回外部講師
第5回外部講師
第6回外部講師
第7回外部講師
第8回外部講師
第9回外部講師
第10回外部講師
第11回外部講師
第12回外部講師
第13回外部講師
第14回外部講師
第15回外部講師

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は商学部デイロママリシーに沿って、具体的な改善策や解決策の提案ができる能力の醸成に寄与する。具体的には「創造力（新しい視点と豊かな発想を持った人材）」を育成に寄与する。「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる。」ようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

該当事項なし

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
株式会社リクルート メディアプロデュース部にエンタテインメントビジネス、デジタルソリューションビジネスなどの事業企画、広告会社にて企業CI、広告企画・制作、メディアプランニング、PR・イベントプロモーションなどのマーケティングコミュニケーション戦略の企画、実行した実務経験による経験を生かした具体的な説明を通して、現場での課題の解決方法に関するヒントを得る。

備考

授業計画は変更される場合がある。